

史 村 史  
り り 67  
納 さ よ  
編 さ よ  
だ

ある護郷隊員の戦争体験（絵画、短歌にこめられた思い）

万座毛 照明弾や地雷網  
暁さけねば帰り危ぶむ

遥かなる 爪痕深し 恩納岳  
年は弱冠十六だった

風は凧ぎ 静か夜空のキビ畑  
爆薬背負い 伏せて今かと

安富祖国国民学校では藁(わら)人形を銃剣で突いたり、斬り込み攻撃の爆弾を作る訓練などを受け、恩納岳に食糧や弾薬を運んで遊撃戦の準備をしました。

74年前、万座毛の米軍戦車部隊に爆破攻撃を仕掛けた、元護郷隊の平良邦雄さんの短歌です。平良さんは現在神奈川県在住で、地域の平和学習に協力し、ご自身の恩納岳での護郷隊の体験、故郷大宜味へ帰るときの過酷な状況についてお話しされています。また、当時の陣地や、艦砲が打ち込まれる恩納岳、米軍艦船に体当たりする特攻隊などを短歌や鉛筆画にして残しています。絵画は護郷隊についての写真が全く残っていない中、きわめて貴重な資料といえます。今回は平良さんの絵画、短歌から恩納岳での護郷隊の戦争に迫ります。

平良さんは1928年、大宜味村の出身。お兄さんが航空隊の教官で、航空兵になることを夢見る少年でした。しかし、陸軍、海軍の航空兵試験を受けたものの、身長が足りず不合格になりました。合格した友達は生死不明となり、帰ってきませんでした。沖縄戦直前の1945年3月、平良さんは護郷隊へ召集され、熱田の安富祖国国民学校にやってきました。護郷隊に入るときには「鈍感だった。飛行兵を志望するくらいだから、怖いことはなかった。戦争というのがよくわからなかったし、上官の命令でしか行動しない、あやつり人形」だったと述べています。

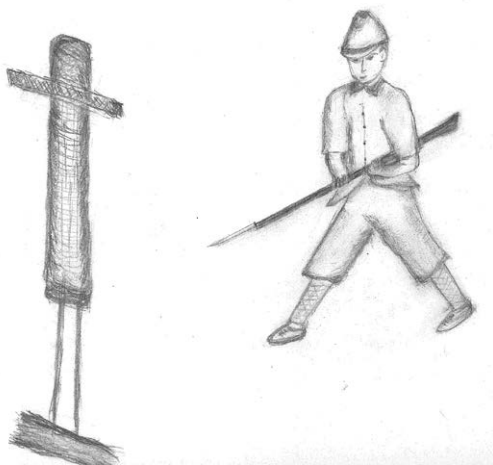
平良邦雄さん

大宜味村出身。  
神奈川県在住。



5月に来村され、体験を現地で語ってくださいました。その際に短歌や絵画を提供いただき、また、収容所から脱出して故郷へ向かう時に着せてもらった着物もお借りすることができました。

平良さんの資料は慰霊の日企画展（村博物館にて。6月18日～7月7日）で展示しております。



安富祖国国民学校での刺突訓練



恩納岳から見た、米軍艦船に突撃する特攻隊

米軍は本島上陸後、恩納村の海岸沿いに拠点を作り、恩納岳への攻撃準備をすすめていました。万座